

令和4年度第2回奥州市上下水道事業運営審議会 会議録

会議の名称	令和4年度第2回奥州市上下水道事業運営審議会		
開催日時	令和5年1月30日（月）午前10時00分～午前11時37分		
開催場所	江刺総合支所 多目的ホール	公開の可否	可
事務局（庶務）	上下水道部経営課	傍聴者数	1人 （報道関係1人）
委員	出席者	佐藤郁夫、境田洋春、及川和人、千田喜久雄、小沢利彦、菅原恵美子、小野寺由記子、佐藤久喜、高橋文香、三浦敏、松好悦子、菅原嘉久、佐藤有紀（以上13人）	
	欠席者	伊藤千恵、柏山裕司（以上2人）	
市（出席者）	小野寺隆夫副市長（所用により中座）、齊藤理上下水道部長、経営課：吉田俊彦課長、高橋ゆき課長補佐、渡辺美香水道経営係長 水道課：佐々木啓二課長、渡辺健悦課長補佐、近藤天雄課長補佐 下水道課：阿部祐寿課長、村上寿課長補佐（以上10人）		
議題	第2次奥州市水道事業中期経営計画（後期計画）（案）について		
備考	奥州市水道事業の計画見直しについての報告 奥州市汚水処理施設概成アクションプランの見直しについての報告		

会 議 内 容		
件 名	結 果	特記事項
第2次奥州市水道事業中期経営計画 (後期計画)(案)について	事務局案のとおりで異議なし。	

## ＜会議の成立＞

(高橋経営課長補佐)

会議の成立についてですが、本審議会委員15名中、伊藤千恵委員及び柏山裕司委員から欠席の報告があり、本日は13名の出席となっております。従いまして、奥州市上下水道事業運営審議会条例第5条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しており、会議が成立していることをご報告申し上げます。

### 1 開会

(高橋経営課長補佐)

それでは、ただいまより令和4年度第2回奥州市上下水道事業運営審議会を開会いたします。

初めに、小野寺副市長より、ご挨拶申し上げます。

### 2 市長挨拶

(小野寺副市長)

日頃から、本市上下水道事業の運営に当たり、貴重なご意見を賜り誠にありがとうございます。

本日は、向こう5年間の「第2次奥州市水道事業中期経営計画(後期計画)」案についてお示しし、委員の皆様のご意見を賜りたいと存じます。

第2次奥州市水道事業中期経営計画は、水道事業のマスタープランである「奥州市水道事業ビジョン」の行動計画として位置づけられるものです。平成29年に策定しました前期計画の第2次奥州市水道事業中期経営計画が、今年度で計画期間を終了いたします。そこで、今回、前期5か年の実績を踏まえ、後期計画としまして、令和5年度から令和9年度までの計画を策定するものでございます。

さて、本市の上下水道事業は、これまで、胆沢ダムを水源とします、たんこう浄水場からの本格受水に伴う施設整備などに取り組むとともに、業務面では、令和3年度から料金収納業務に加えて、給水装置工事関連業務を委託するなど、窓口を一本化し、サービスの向上や経営の合理化に取り組んでまいりました。

しかしながら、人口減少などにより、水需要の減少が見込まれるなかで、高度経済成長期に布設した管路の更新、さらには、震災に備えた施設の耐震化など、設備投資への需要は高まり、水道事業の経営を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。

こうした状況を踏まえ、水道事業の健全経営に努めながら、今後とも、安全で安心な水を安定的に供給できるよう運営してまいりたいと考えております。

なにとぞ、慎重審議いただきますようお願い申し上げます。

(高橋経営課長補佐)

つづきまして、次第3会長挨拶。佐藤会長、よろしく申し上げます。

### 3 会長挨拶

(佐藤会長)

おはようございます。大変ご苦勞様です。今日は、天気は良いですが、道路が凍って大変だったと思いますが、お集まりをいただきましてありがとうございます。

私、第1回目の時に、どうしても出席できなくて、その中であっても、会長に選出されました。佐藤郁夫というものです。

1回目に大変申し訳なかったのですが、欠席にもかかわらず、会長にご推薦いただきまして、感謝を申し上げたいと思います。

今副市長の方から、今日の会議の説明がございましたが、詳しくは担当者からこれから説明をするわけですが、水道、下水もですが、今、国内の強靱化ですね。例えば石川県で、断水、4日も5日も断水すると、そういう状況であります。いつ災害が起きるかわかりません。それから、常に水はどうしても必要なものですから、大変重要なものでございます。それを審議するということですが、資料が事前配布されていますから、忌憚のない遠慮のない質問ご意見をいただければ幸いです。

なお、11時半を目途に、この会議を終了したいというふうに思っておりますので、時間にこだわらないでもいいですが、午前中には終わりたいと思いますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。今年度、前期の計画がこの3月で終わります。それを踏まえて、今度は後期ということになるわけでございますので、これから大変重要になって参りますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。大変ご苦勞さまで。

(高橋経営課長補佐)

挨拶が終わったところでございますが、副市長はこの後、別の用務があり、大変申し訳ありませんが、ここで退席となります。ご了承ください。

それでは、ここからは当審議会条例の規定により、佐藤会長の進行でお願いいたします。

### 4 議事録署名人の指名

(佐藤会長)

それでは議長役を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

「4 議事録署名人の指名」についてですが、特に定めはありませんが、私の方で議事録署名人を指名させていただいてよろしいでしょうか。

それでは、名簿順にお願いしたいと思いますので、及川和人委員と千田喜久雄委員にお願いいたします。

## 5 協議

### 「第2次奥州市水道事業中期経営計画（後期計画）（案）」について

（佐藤会長）

つづいて、5の協議に入ります。

「第2次奥州市水道事業中期経営計画（後期計画）（案）」について、事務局より説明をお願いします。

#### ○ 事務局説明（齊藤部長、吉田経営課長）

齊藤部長から概略について、吉田経営課長から概要版を用いて、後期計画（案）について説明する。

（佐藤会長）

説明をいただきました。これから質疑に入ります。事前に配布されておりますので、一読を願ったと思いますので、どうぞ忌憚のないご意見をいただきたいと思います。質疑、意見、ともに受けますのでよろしくをお願いします。どなたかございませんか。

（小沢委員）

3頁で前期の収支計画の推移の中で、収益のところ、料金収入のことを謳ってますが、計画に対し年間平均で約6,000万円ほど上回ったということですが、実際、最初の3年間、令和2年までが右肩上がり、推移しているが、令和3年度から減少している。各年度の上昇した理由、令和3年以降に減少した要因、理由を教えてください。

料金改定の資料が、資料1にあります。それこそ強靱関係で災害時の応急対策、あるいは安心安全な水道の提供があるのですが、料金改定は、令和6年度改定と令和9年度改定の資料が上の方であって、そして下の方に改定しなかったものがあるのですが、実際、留保資金の繰越額が有事を含めた適正な額が、どのくらいの金額に定めているのかを教えてください。

（高橋課長補佐）

1点目の営業収益が30年度から2年度までは右肩上がりだったということと、3年度が落ちているということですが、この計画を立てた時に、令和3年度は料金改定を見込んだ収益を計上していたため、改定を見送ったということで、計画よりも収入が下がったということになります。計画の料金を積算する時、基本料金は28年度の実績に人口推計の増減率を乗じて計算して、令和3年度には料金改定するというので計画値を出しておりました。改定を見送ったということで、3年度、4年度とマイナス表示になっております。

2点目の料金改定の関係で留保資金の適正な額はどれくらいかということですが、適正な金額としては、14億円程度あれば対応できるというふうに見込んでおります。

（齊藤部長）

補足しますと、一般的に留保資金どのくらい必要なのかということになりますと、日本水

道協会が出している考え方というのがございまして、料金収入の1年分ですので、ここで言いますと奥州市の場合23億とかそのぐらいあったらいいなという額でございしますが、我々としては災害等、本当に必要最低限な分として14億円は確保したいということで考えているところでございます。

(小沢委員)

そうしますと、令和6年度改定して、令和9年度改定する一つの案があるのですが、一年延ばしで、一番下の表を見ますと、改定しない場合が書いてあるのですが、一年延ばしの考え方があるということも想定されるのでしょうか。令和7年度にずらすということも、留保資金繰越金も改定しない場合、14億7千万円程になると書いてあるから、その次の年は11億9千万円となっているから、数字で見ると一年延ばしての考えはどうなのかと思ったが、それに関してどうですか。

(齊藤部長)

内部留保資金としては14億円ということですが、基本的には単年度の収支がマイナスにならないということも、もう一つの料金改定の条件としてあります。ですので、料金改定しなかった場合は、令和6年度の当該年度の純利益が1,800万円ほどの損失を計上するということから、避けては通れないのではなかろうかなというふうには思っています。今現在、それに向けて、いろいろ検討してございます。コロナ禍の影響等もありますので、今小沢委員がお話いただいた通り、何とかこう伸ばせればいいのですが、その辺きちっと整理をした上で、改めて皆さんにご意見を伺う場面を、来年度の早い時期、夏ぐらいには、皆さんのご意見を伺う場面を持ちたいなというふうに思っているところでございます。

(佐藤有紀委員)

概要版2枚目の5実績の評価で、ダウンサイジングというふうに書いてありますが意味は分かっていますが、例を一つ具体的に、こういうところに重点的にダウンサイジングをやっているというお話を聞かせてもらえばいいなというのが一つ。

それから、アセットマネジメント、機械とか施設の話だと思うが、17頁の詳細資料にも書いてあるけれども、特にこれを重点的にマネジメントしていくことが必要だとか、アセットマネジメントの中身をもう少し詳しく、特にプライオリティの高いのは何ですかということ、素人なので、実際の水道事業でどういうところに、書いてあることはみな重要だと思うけど、具体的な話も聞かないとイメージが湧かないので、一つお願いしたい。

次の頁、有収率のところ、岩手県で4位ということで立派なことだと思うけど、1、2、3位はどこですか。

それから、中期指標の耐震化率、非常に良いとか言ってましたけれども、管路耐震化率とか、管路耐震適合率、これは岩手県では何番目ぐらいにあるのか。良いのは聞きましたけど、悪いのも聞きましたけど、言っていないやつもついでに、ぜひ教えてもらいたい。

(齊藤部長)

まずダウンサイジングの例ということでございますが、今現在考えているのは、奥州市は

広くて、施設の数が180ぐらいあるということで、配水地など統合して一本化するとか、そういうことを考えておりました。例えば、江刺地域には、近くに向山とか館山、そして工業団地といったものがございますが、それも古くなってきているということで、この後、説明させていただく場面があるんですが、用水供給事業の絡みもあり、そういった施設を一つにまとめるというようなことに重点を置いて取り組んでいるということでございます。配水エリアの見直しを行っているということでございます。

アセットマネジメントにつきましては、これも関係ありますが、今現在の施設をこのまま残したらどういふふうな維持管理費が掛かっていくかということなんですが、市が管理する管路、均せばだが年間25億円の費用が掛かってきます。施設については年間5億円、現在のままの施設をそのまま維持していこうとすれば、合わせて30億円ぐらいの費用が掛かってくるという試算をしております。今回、ダウンサイジングもありますし、この後説明します、水道事業計画、胆沢ダムからの受水に合わせた見直しでいくらかでもコストを削減していくというようなことで取り組みを進めているところでございます。

有収率の県内の1位というのは盛岡市さんです。こちらについては90%以上超えています。2番目は滝沢市さんです。こちらも90%以上超えています。3番目というのは、岩手中部さんで87%程度になっています。その次が何とか奥州市と。4位以降については、接戦というか、そういう状況でございます。

ちなみに1年前は奥州市の状況というのは、県内でも8番目で、何とか有収率対策をやっているということで、4番目まで順番が上がってきたということでございます。

管路の耐震化とか適合率については県内の状況、今資料を用意していますので後程提供させていただきますと思います。

(佐藤有紀委員)

一関とか北上よりも良いということで、大変頑張っているということで、ありがとうございます。ぜひこれからもアセットマネジメントも、それからダウンサイジングも具体的にどういうもので、特にこの案件はどうだとかとそういうことも、PRも含めてやってもらおうと、みんなもよく分かりますので、よろしくお願いします。以上です。

(佐藤会長)

最後はご意見でよろしいですか。はい。

(境田委員)

概要版の説明ちょうだいして、拝見しまして、説明並びにこの考え方については特に問題はないのですが、昨今の社会情勢が急激な変化をしています。それというのはいずれ、電気料というのがすごくもう、生活するのに相当、ストレスが入って、経済的なことがかなり大変な状況になってきてます。いずれそういう電気、それからいずれ水を作る、いろんな人が関わるという中で、電気とか物価が上がるわけですね、これらがこれから水道経営にあたって、どのように反映をさせていくのか、そしてどういふふうな努力をしながらやっていくか、そこら辺の考え方について、教えていただきたい。

(齊藤部長)

今ご指摘受けました、電気料の関係につきましても、実は今年度において、予想していた通り3,500万円から3,600万円ぐらい、例年より増額となる見込みになっています。

この部分につきましては、国のコロナ交付金の支援がございまして、2月開会予定の議会において、今年度の分については、交付金を充当するという形で、最終的にこの分っていうのが、3,500万円ぐらい本当は水道事業会計から負担しなければならなかったものが、一般会計、国からの支援を充てることによりまして、純利益が見込める。この分が最終的には料金の転嫁率、改定の際にも、その分控除されるということで、今年に限っては、そういった対策がとられるということなのですが、今後については、国からどういう補助に内容が変わっていくのか、また、市として優先順位がありますので、水道の方に回ってくるかどうかというのもこれからの検討事項にはなります。

いずれ今境田委員がおっしゃられた通り、この水道料金値上げの部分で、電気料の高騰というのは本当に大きな要因になってきます。

なかなか令和6年、令和9年というふうに改定は見ておりますけれども、今後5年先6年先というのは、もう見通せないということになりますので、我々としては、令和6年度の改定においては、向こう3年間だけを予測して進めていきたいというふうに考えてございますし、その他で経費削減できる部分については、料金改定に係る部分にかかわらず、新たな収入についての対策も、あわせて検討してございます。そういったことで、何とか必要最低限の値上げで収めたいなというふうに考えているところでございます。

(三浦委員)

資料の5頁のところに、管路の耐震化率という、単純で管路が耐震化に向かって整備されたというふうに当然理解しました。それで、これも、耐震化率を図っていくということは、漏れも少なくなって、有収率にも反映されてくるのだと思うのですが、この耐震化を行う根本の基準と、補助率、国と県と、あと私どもの奥州市で、負担する分というのはどれぐらいなのか、お聞かせいただければと思います。

(齊藤部長)

管路耐震化については、様々な国のメニューがございまして。創設事業という胆沢ダムの関連でやる場合は、3分の1が補助対象事業として認められますし、そしてさらには、一般会計から3分の1ということになっておりまして、水道事業会計では3分の1の持ち出しということが1点でございまして。

その他に、管路耐震化事業というのは、すべての管路に対して補助金が交付されるものではなくて、重要な管路に対して交付金が充当となります。これが国庫補助事業としては4分の1補助となってございます。一般会計からは、上積み事業費と言いまして、過去の事業費の超える分の2分の1が一般会計からいただく分というような制度をうまく活用して、事業を実施しているというところです。

重要な管路というのは、例えば緊急避難所、一時指定避難所まで結んでる管とか、あとは水源地から配水地へ送る導送水管に対する補助ということになります。

(三浦委員)

補足質問させていただきますけども、耐震化という、そういう根本的な管路の工事に関わる部分だということで、私どもなんか災害あった時に緊急的に、よくニュースで見るそういう工事に関わるのはこことは関係ない別なところの収支になるわけだということなのですね。

毎年、計画していく耐震化を行っていくという工事の対象は奥州市全般だと思っていたのです。それがごく一部の水源地から配水地までの、そういうことがこの耐震化の行う対象管路ですよということなのですよ。

私、誤解していました。利用者として耐震化というのは古いのを新しくしていくのも含めてかなというような、大きな広い範囲だったのですがわかりました。専門的な分野の金額だったのですね。わかりました。

(齊藤部長)

私の答弁が不足していたのかなと思います。耐震化については、オール奥州全部でございます。今申し上げたのは、国から補助支援が受けられる事業としてはそういったものがあります。それ以外の耐震化、奥州市の場合すべての管路更新を、原則として耐震管を使用して今現在行っておりますので、今申し上げた二つの事業以外につきましては、水道事業の持ち出し、自己資金で工事を行っていくということになります。

(佐藤会長)

そのほかにございませつか。それでは、質疑を終了いたします。この「第2次奥州市水道事業中期計画（後期計画）」については、事務局案の通りでご異議ございませつか。

(委員一同)

はい。

(佐藤会長)

異議なしと認めます。それでは事務局案の通り進めていただくようにしますので、事務局の方、よろしくお願ひします

## 6 報告

### 報告第1号 「奥州市水道事業の計画見直し」について

(佐藤会長)

次の「6 報告」に移ります。報告第1号「奥州市水道事業の計画見直し」について、事務局より報告をお願ひします。

○ 事務局説明（佐々木水道課長）

資料を用いて説明する。



## 報告第2号 「奥州市汚水処理施設概成アクションプランの見直し」について

(佐藤会長)

次に、報告第2号「奥州市汚水処理施設概成アクションプランの見直し」について事務局より報告をお願いします。

○ 事務局説明（阿部下水道課長）

資料を用いて説明する。

(佐藤会長)

次第の報告第1号、第2号のご説明をいただきました。これに対しての、質問或いはご意見ございましたらどうぞ忌憚のないところでお願いいたします。

(佐藤有紀委員)

意見なんです、奥州市の文書規程とかなんかでは、和暦が令和とか平成とかですね、そういう資料が非常に今回多いのですが、基本的に今世の中はもう西暦で一般企業も含めて我々老人でもですね、西暦でやっている時代なのに、資料の中身は非常に結構なんだけれども、例えば令和30年度とかね、これは頭で計算しながらやるっていうのは非常に何年先の話なのだろうと。皆さんも多分そう思っているんじゃないかと思うのですが。今回いろんな資料を見ましたけれども、一部は西暦を書いていますけれども、基本的に世の中トレンドでいっても、もう西暦でやっていかないと、先々の計画なり、案も含めて非常に分かりにくいと。せっかくいい資料を作ってもらっても、5年後なんだとか、10年後、全然これ、例えば令和30年度は2000何年だったら、そういうのもですね、そういうのからいろんな意見が出てくると思うんで、ぜひそういうふうに変えてもらおうと、よろしいんじゃないかと、たぶん奥州市がそういう文書規程でもあるのかなんですけど。ぜひ今後は、そういうふうをお願いしたいと。以上です。

(吉田経営課長)

今回、この計画策定づくりにおきまして、我々としましては西暦和暦、どちらがいいんだろうかっていうことで、いろいろ検討しまして、庁内としましては、どちらかに統一しているところまではまだいっておりませんでした。ということで、今回につきましては一部併記ですね、和暦と西暦両方併記することもありますし、もしかすると皆様和暦の方がまだ馴染みがいいのかなということで、和暦ということで、箇所が多かったかなというふうに思いますけれども、今のようなご意見もいただきまして、今後につきましては西暦なども対応して参りたいと思いますので、どうもありがとうございます。

(佐藤有紀委員)

今の回答は、この辺の常識なのかもわかりませんが、一般企業も含めてもう20年ぐらい前からこういう西暦が、ほとんどのところはトレンドで使っていますし、例えば新聞でも何でもですね、もう西暦中心に括弧でちょっと和暦を書いてあるっていう時代ですから。多

分、高齢者でも、何年後はどうなんだっていう話になると、今の回答は、あまり前向きじゃないと私は思いますので、ぜひ議論してもらいたい。よろしくお願いします。

(齊藤部長)

貴重なご意見ありがとうございます。その通り西暦中心で物事を考えていくのがスタンスだというふうに思いますので、そのように検討はして参ります。ありがとうございました。

(三浦委員)

汚水処理施設の方のアクションプランの方なのですが3番の中で、右の方の一番上のところに、令和5年度から6地区の農集及び公共施設を接続予定しておりますという、地区の対象とかはもうお決まりだろうと思いますけども地区の懇談会を経ての、内容だろうなというふうに読み取りましたが、その中で料金体系というのもやっぱりそれぞれの地形なり、集水人口なり、利用あったと思うのですがその辺のところ、概要、大まかな料金体系をお聞かせ願えるものなのでしょうか。一番、集まった方々も統合することによって何がメリットあるのだというようにところを聞かれたと思うのですが、メインとする、お答えの中で皆さんが納得した内容のところでお聞かせいただければなと思います。

(阿部下水道課長)

農業集落排水処理施設の料金体系ということで、回答したいと思います。いずれ公共下水道と農業集落排水処理施設の料金の統一化ということで、令和2年度に一本化ということで実施しております。いずれそれに伴って、公共と同じ料金をいただいておりますので、今後、農業集落排水処理施設が公共下水道に接続なっても、今と変わらない料金でいただくということになります。

現在、農業集落排水処理施設が30地区29処理施設ありまして、そのうち17処理施設を統廃合により、最終的には農業集落排水処理施設が12施設残ることになります。いずれ接続等に伴っての料金の変化とかそういうのはございませんので、そのまま同じ料金体系で進むということになります。

(小沢委員)

水道料金の改定比較の3ページなのですが、計画では1日当たり3万立米でいった場合に、この一部参考ですけど、4,015円だったのが、一応5,753円ってことで10年後の金額なのですが、先ほど課長さんがお話したのでいくと、いま水源地が22あって、12の水源地にすることによって、1日あたり3万だったか忘れたのですが、これ一応20年後の1ヶ月当りの金額になると思うのですが、多分途中途中で段階的に料金を改定して行って、20年後はここに持ってく数値で、3月に厚労省、この金額で一応持っていくとなれば、途中の3年後、4年後と、こういいシミュレーションを一応考えているのかどうか、それだけちょっとお聞かせください。

(齊藤部長)

この25年後というのは現段階、コロナ禍における電気料金高騰する前に試算してございま

すので、この料金につきましては、3年に1回の見直しというのを先ほど来申し上げてますが、3年ごとに一応料金を少しずつ改定していくといった内容で、この25年度の料金は試算してるということです。何もしなかった場合と、単純に言いますと、統廃合した場合は、皆さんの負担も安くなりますよという見極めるための資料でございます。実際には3年ごとにきちんと値上げ幅は検討して参ります。

(小沢委員)

階段を上るような感じでこう考えているということで、市民にあまり負担がかからないような感じですね。分かりました。

(佐藤会長)

そのほかにございませんか。それでは、この報告第1号、2号も質疑を終結いたしますがよろしいですか。

(委員一同)

はい。

(佐藤会長)

それでは、この通り事務局案で進めるということでございます。

## 7 その他

(佐藤会長)

その他でございますが、事務局の方であるそうですから、よろしく申し上げます。

(齊藤部長)

先ほど、佐藤委員の方から、耐震化率とか耐震適合率の県内の順位ということでお話いただいておりますが、この部分につきましては、資料がまだ完全に沿ってございませんので、事業体にお聞きした上で作成しまして、後程皆さんの方に、この分については郵送させていただきますと思います。

あとは、料金改定の審議、先程来から令和6年度からの改定を見込んでいますよということをお話しているわけでございますが、上げるにしろ上げないにしろ、この部分については、8月から9月頃に皆さんの方にお諮りをしたいと考えてございますので、よろしくお話ししたいと思います。

(佐藤有紀委員)

わざわざ郵送してまで、すぐ知りたい話じゃありませんので、ぜひこういうことを多分、ほとんどもう整理して、数字を押さえてあれば、何かあったときにお答えできればいい話なので、次回の時でも教えてください。そんな経費いらないですから。よろしく申し上げます。

(齊藤部長)

では次回の会議の時に改めてお示しさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

(佐藤会長)

その他のところで何かございますか。何もないですね。

それでは閉会の前に、それぞれの委員から、事務局に要望案が出されましたので、それは、間違いなく事務局の方で検討してください。よろしくお願いします。

## 8 閉会

(佐藤会長)

それでは閉会に入ります。

(高橋経営課長補佐)

これをもちまして、令和4年度第2回奥州市上下水道事業運営審議会を終了します。

本議事録は、正確であると認め、署名する。

令和5年2月3日

議事録署名人

及川 和人

議事録署名人

平田 喜久雄